

【特選】

平和から最も遠い平和賞

島崎 穂花

ノーベル賞のいう「平和」と中国政府の「平和」。反対側から見れば同じ概念が最も遠いものになる。今回の劉曉波氏は、ナチ政権下の受賞者、K・オシエツキー氏以来。

【秀逸】

尖閣にコブ国後にイボができ

松永 昇児

南の島に気を取られているうちに、今度は北の島。いずれにしても、ガラ空きの脇、不安定な足元を狙われている。手を打たないと、コブやイボだけでは済まなくなる。

四千年前の海図で漁に出る

島崎 肇

理屈はつけよう、ご託は並べようである。日本人に歯軋りさせ無力感を感じさせる中国の言いたい放題に、ただメモを読んでいるだけでは解決にならないよ、菅さん。

ハンカチをお土産にする日本ハム

山口 早苗

本年のプロ野球ドラフト会議で、「王子」の元祖であり、いまや早稲田大学のエースとして逞しく成長した斎藤祐樹投手を、ハンカチごと引き当てた北海道日本ハム。

民主党敗北 アメリカのことか

鈴木 寿子

アメリカの中間選挙でも、大統領の支持率低下と、与党民主党の退潮ぶりは目を覆いたくなるほどだったが、片や共和党の存在感が、日本の自民党とは大違い。

大きな事件は、それへの途次が、段階的に時事吟の題材になる。たとえば、七十

十余年前に樹立された双葉山の六十九連勝へ向かう白鵬の一步一歩が句になった

が、あたかも本誌締切日の九月十五日、博多場所二日目に夢が絶たれたというの

は、あまりにも皮肉な巡り合わせだった。掲載句はすべて過程の句であり、読者

かその結果を知った上で読むことになる、いささか間が抜けた感は免れない。

民主党の代表選を含めて。同じような例が今年は何つあったが、結果が出て

しまった後でも、プロセスもまた時事吟であることに変わりはない。募集期間が

長いこうした時事欄では、両者が仮に同居していてもおかしくない。

本欄では今後も、その時その時を大切にしていきたいと思ふ。

本欄では今後も、その時その時を大切にしていきたいと思ふ。

長男は祐樹次男は遼がいい
 TPPへFTAとEPAが考える
 領海にサイレンは鳴り止まず冬
 ニンゲンの砂漠に埋まる高齢者
 塀の中へムネオハウスを移築する
 会談という廊下での立ち話
 支持率が下がると増えていく機密
 メモ読んで固有領土と独り言
 会談と懇談の差を考える
 中国の連呼に勝てぬ柳腰
 二代目がひっくり返す八ツ場ダム
 日米の民主で割れる皿の音
 アキハバラ人民元の大人買い
 秘密にもならぬ秘密を伏せたがる
 切札も啖阿も切れぬAPEC
 お茶の間に不法侵入するキノコ
 九州の土俵に立った双葉山
 水嵩を少し増やした八ツ場ダム
 紐付きの子離れもある民主党

鈴木 寿子
 同
 同
 川辺 大柳
 同
 同
 小野寺帆平
 同
 山口 早苗
 同
 島崎 穂花
 同
 尾藤 一泉
 同
 塩見 佳代
 同
 島崎 肇
 同
 河口 世詞

答弁の二人羽織が見破られ
 檢察権法と証拠を操作する
 弱腰に軍靴の音がしのび寄る
 円よりも楯円と呼んだ方がいい
 女房のへそくり見つけゲゲのゲ
 尻馬に跨るように来るロシア
 中国に痛し痒しの秋葉原
 一兵卒がいちばん偉い民主党
 B級グルメ日本の舌を鈍くする
 イチローにもういいでしょう榮譽賞
 尖閣にセコムしてない付けが来る
 オバマだけ握手が温いAPEC
 笑えないビデオ笑われる機密
 切札を仕分けに使う茶番劇
 クマの足また国境が遠くなる
 代わり映えしない民主に白け出し
 ホタル減り国の明日が暗くなり
 につぼんは米とお辞儀がうまい国
 尖閣の試写会場になる茶の間

同
 三浦 哲夫
 同
 窓辺 舎人
 同
 佐々木福太郎
 同
 吉川 一男
 同
 川村 雄一
 同
 田口 立吉
 同
 松永 昇児
 同
 普川 素床
 同
 久保 昭二
 同
 二宮 茂男
 同
 松岡 博
 同
 松原 幸子

現在、マスコミに真の「時事川柳」はありません。伝統ある時事川柳が方向を失い、路頭に迷う前に、いかなる聖域も持たない、限りなく自由な時事風刺川柳を、本欄で再び募集いたします。奮って自信作をお寄せください。

投稿規定は、メール（件名は「目」と記載）またはハガキ一枚に一句、枚数に制限はありません。締切随時。尾藤三柳責任選。年度賞（時事大賞）の対象になります。投句専用メール senryu-koron@doctor-senryu.com